つなごう みんなの学びと育ち

「望ましい教育環境のあり方に関する方針」に基づいて市が進めている「キャリア教育を軸とした小中一貫教育とコミュニティ・スクール」の取り組みについてお知らせします。

問い合わせ　学校教育課　小倉圭司　☎㊿2645

「アースランチ フェスティバル」開催

市では静岡大学の協力により、キャリア教育の試行事業として、子どもたちのアイデアによる創作料理を作って競う祭典「アースランチ フェスティバル」を11月に開催します。

フェスティバルでは、参加する小学校の児童が、学校菜園や学校区で採れる食材を使った料理を考え、作り、審査員にプレゼンします。審査員は内容を聞き、試食をして大賞を決めます。

フェスティバルに向けて、子どもたちは野菜を育てたり、料理を考案したり、宣伝のためのポスターの作り方を専門家に学んで作成したりしています。

この活動を通して、子どもたちには、ただ料理をつくるということだけではなく、創造力を働かせ、今あるものを活用し、周りと協力をしながら新しいものをつくることができるようになってほしいと考えています。そして、郷に学び、将来を見通し、自ら行動を起こすことができる「起郷家」を育成することが、市のキャリア教育のねらいです。

また、学校と地域の連携を深めたり、地域の特色をつくったりすることで、子どもから大人までみんなで地域のことを考える機会にしたいと考えています。

児童がデザインを考え、できあがったポスター

育ちと学びをつなぐ 小中一貫教育

小中一貫教育を導入するに当たり、子どもたちの9年間の学びと育ちをつなぐために、中学校区ごとに順次、連携事業を進めていきます。本年度からは、牧之原小・中学校が研究を始めました。

牧之原小・中学校では、まずは両校の目指す子ども像を「協力平　夢ある未来を切り拓く」にそろえ、9年間で育みたい子ども像を共有して取り組むことにしました。

子どもたちは、学びの交流として小学校6年生が中学校の授業参観に行ったり、特別支援学級が合同で農園活動を行ったりしています。

教員は、合同で授業づくりや子ども理解の研修を行い、お互いに授業を参観し合うことで、9年間で育む資質・能力の相互理解を深めています。また、音楽の授業では、中学校の教員が4～6年生の授業を受け持つ「乗り入れ授業」も行い、専門性の高い授業を実現しています。

また、両校をつなぐ「グリーンロード」を職員の手で整備し、上靴のままお互いの学校へ行き来できるようにしたことで、子どもや教員が気軽に交流ができる環境をつくりました。

本事業を進めていく中で、各中学校区が特色を生かした取り組みを通して、子どもたちがより成長できるような、9年間の系統立てた教育を確立したいと考えています。

両校をつなぐグリーンロード

始まっています　コミュニティ・スクール

市では、令和４年度までに市内全小中学校に「コミュニティ・スクール」を導入することを目指し、各校で準備を進めています。コミュニティ・スクールは、学校だけでなく、地域の人たちも同じ目標を共有して子どもを育てることができる仕組みです。地域と学校が一緒に考える「学校運営協議会」と、地域が主体となって子どもの学びをサポートする「地域学校協働活動」が両輪となって成り立っています。
本年度からコミュニティ・スクールを導入している勝間田小学校、萩間小学校、相良中学校に、コミュニティ・スクールの現状や今後への期待などについて聞いてみました。

地域の力を学校に

勝間田小学校 校長　**櫻井真弓**（さくらいまゆみ） 先生

コミュニティ・スクール導入のきっかけは、「地域の良さを知り、地域を大切にする子どもを育てたい」という思いでした。学校の職員は人事異動で変わるので、学校だけでは地域の良さを引き出しきれません。地域のことをよく知っている地元の人に入ってもらうことで、地域を愛する子どもが育つことを期待しています。

コミュニティ・スクール導入により、まず職員の考え方が変わりました。責任感が強く、「自分でやらなければ」と考えてしまっていた職員が、人に頼るようになったことで、授業に専門的なものを取り入れられ、かつ、より楽しく活動ができるようになりました。また子どもたちも、地域の良さをさらに深く学ぶことができるようになりました。
将来的には、学校が地域のコミュニティになったらいいなと思っています。学校にいろいろな人が自然に入ってきて、子どもに関わってくれたり、そこで人のネットワークが築けたりするようになることを期待しています。

郷土愛は地域で育む

萩間小学校 ＣＳ（シーエス）ディレクター　**坪池芳子**（つぼいけよしこ） さん

ＣＳディレクターの役割は、学校と地域をつなぐことです。子どもたちには、たくさんの人と触れ合うことで郷土愛を育んでほしいですし、地域の人には、もっと学校を知ってもらいたいと思っています。これらをスムーズに実現できるようにすることが、自分の仕事だと思っています。子どもの笑い声を聞きながら、前向きな人たちと活動ができて楽しいですし、とてもやりがいを感じています。
もともと萩間小学校では、地域の人が学校の体験学習の支援や声掛け運動をしていました。本年度はさらに、学校運営協議会での話し合いを通して、週２回の放課後学習「寺子屋はぎま」を新たに実施することになりました。また子どもの安全のため、通学路の草取りも地域みんなでやろうと決め、実行に移しています。このような活動は、学校のためになるのはもちろん、学校を核にしたネットワークの形成や、地域力の向上につながるため、地域にとってもよいことだと思います。

みんなで考える環境を

相良中学校 学校運営協議会 会長　**今野英明**（こんのひであき） さん

教育現場には、教育の部外者の声が入ることが必要です。学校運営協議会では、教員でない人が、学校と一緒に悩み、課題を解決するためにみんなで一緒に考えることで、いろいろなアイデアが出てきます。
私は今、「地域の子どもは地域で育てる」ことの使命感を感じています。もちろん活動は子どものためではありますが、最終的には地域の力となって返ってくるものだと思っています。
「人を育てること」は一番大切なことです。リモート学習でも学力の心配はあまりないかもしれませんが、コミュニケーション力や見て考えるプロセスは、体験を通して身に付きます。コミュニティ・スクールでは、地域の人と子どもたちが接する機会をつくりたいと考えており、本年度は、子どもたちが自分の将来や生き方を考えるきっかけにしてもらおうと、学校運営協議会のメンバーで生徒の面接練習をしました。
今後は、学校に地域の人が入り「これやってみよう」というような意見が活発に交わされる環境をつくっていきたいです。さらには、小学校や高校との連携も、少しずつできたらと考えています。